

犬の命

3年4組 29番 松原鈴

Keyword: 「犬」「殺処分」「保護」「認知度」

1. はじめに

犬の殺処分を探究しようと思ったきっかけは、飼い犬が亡くなった時に言った「この子は幸せだね」という母親の言葉だった。生まれたときから犬と一緒に育ってきた影響で、物心つく前から動物に興味があった。毎日一緒に過ごしてときどき散歩などのお世話もしていた。動物番組をたくさん見ていた私は、丁寧なケアをされ、お腹いっぱいご飯を食べ、綺麗な犬小屋で過ごす姿が当たり前で「幸せ」だと思っていた。命を落としたのに幸せという母親の言葉が理解できなかった。犬にとって幸せな一生とは何か、疑問に思い探究のテーマ設定をした。

2. 序論

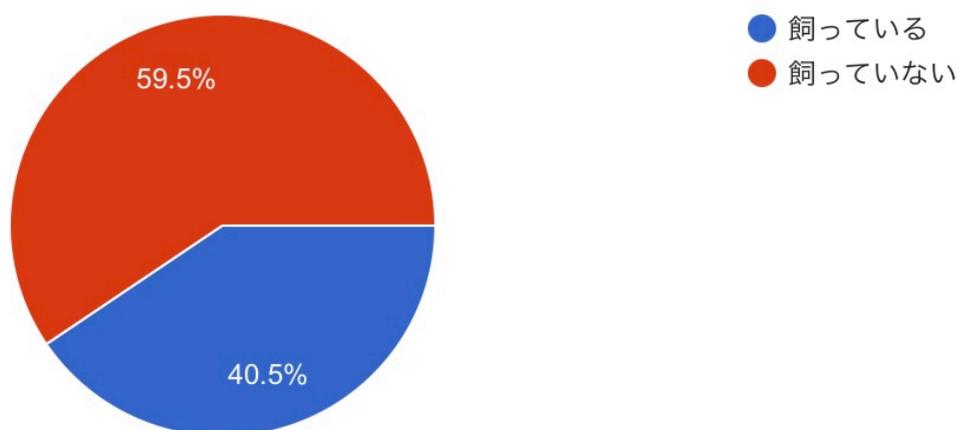
犬の殺処分はどのようにしたら減るのか奈良市の調査により、令和元年から、奈良市は犬猫の殺処分数ゼロを5年連続達成している。その裏側には、TNR活動、譲渡の推進、預かりボランティア、飼養の充実やふるさと納税、がある。令和5年度の譲渡数は過去最多となった。

奈良県の2022年度の犬猫の殺処分数は04年度の約1割の364匹まで減少している。殺処分数が減ったことは良いことだが、奈良市は5年連続ゼロを達成している。県としてまだまだできることがあるはずだと考える。

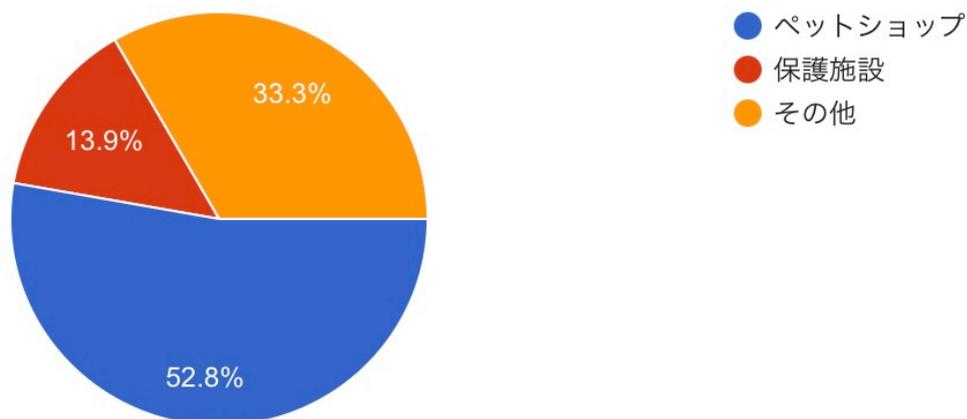
市としては色んな制度があり動物との共生社会が実現してきているが、奈良県としてはゼロとは言えない。奈良県としてより殺処分を減らすには、まず現在の奈良県の殺処分の認知度を高めることが必要だと考えた。そこで、国際高校生に殺処分に対する認知度や考えをアンケート調査した。

3. 本論

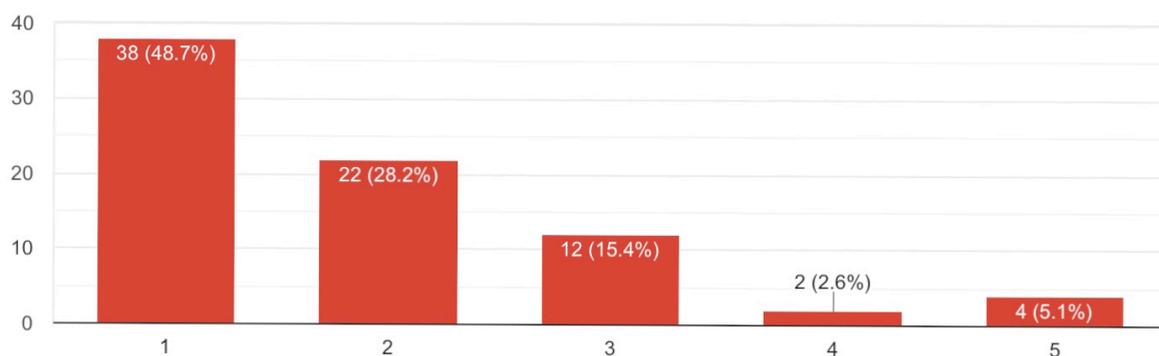
高校生約80人に犬の殺処分の認知度についてアンケート調査した。質問は合計6つで、まずはペットを飼っていますかと聞いた。犬を飼っている人の割合は約4割だった。



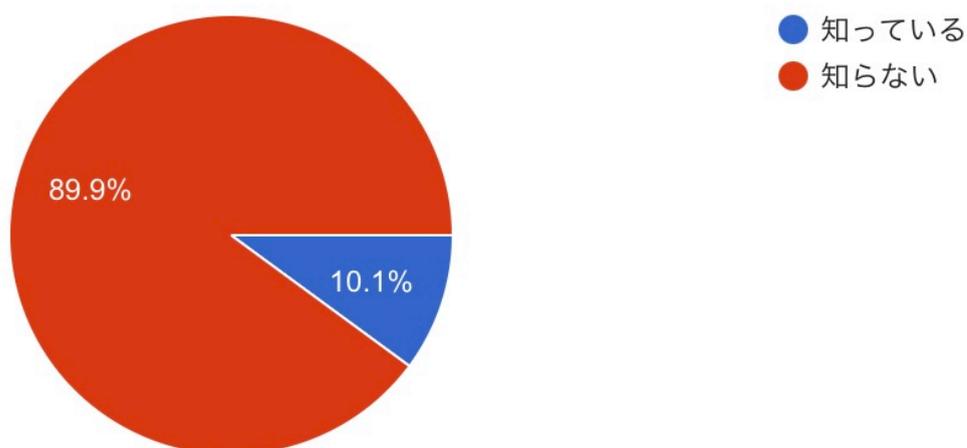
次に犬を飼っている人へ、どこで飼ったか質問した。選択肢はペットショップ、保護施設、その他の3つに絞った。保護施設と答えた人は約11人いた。犬を飼う手段はペットショップのイメージが強かったため約14%もいた事が意外だった。



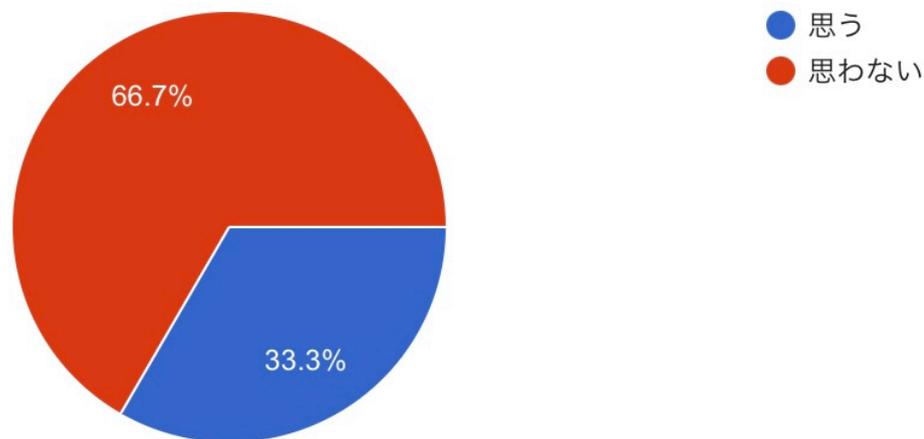
次に、犬の殺処分への興味を聞いた。1が興味がある、3がどちらでもない、5が興味がないと設定した。約5割の人が殺処分に興味があると答えてくれた。



次に、奈良県にも殺処分する施設があることを知っているかと質問した。殺処分への興味が高いわりに、施設があることを知っている人は少なかった。これが殺処分の認知度を顕著に表していると思う。そもそも知らない人が多いと殺処分ゼロには近づけない。



最後に、その施設に行ってみたいか聞いた。その結果は、行ってみたいと思わない人が約7割を占めた。行ってみたいと思った理由は、どれくらいの犬がいるか気になる、本当は見たくないけど、現状を知るべきだと思う、自分にも何かできるかもしれない、などがあった。行ってみたくないと答えた人は、残酷だから、現状は知りたいけど自分の目で見るとは怖い、自分が助けることが出来ない不甲斐なさを感じてしまいそう、などリアルな理由だった。



4. 結論

アンケートの結果から、犬と関わる機会がある、殺処分への興味が深い割合が多いのに本当の現状は見たくないという人が多く見られた。この意識のままでは殺処分は一向に無くなることはない。しかし、この結果を得られたことで高校生の私たちが何をできるかを知ることができた。それは現実から目を背けず、真実と向き合うことだ。高校生だから何も出来ないと思わず、小さなことから知っていくことが殺処分を減らす第一歩になると思う。

5. 参考文献・出典

奈良市ホームページ
犬猫殺処分ゼロを5年連続で達成しました【市長会見】（令和6年4月30日発表） - 奈良市ホームページ <https://www.city.nara.lg.jp/site/press-release/205245.html>

読売新聞オンライン記事
犬猫の殺処分数は4000匹から350匹に...大幅減実現した奈良県、さらなる対策へ：読売新聞オンライン <https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20240420-OYO1T50008/>